

農政の動き 2015年1月9日～1月16日

◇エルニーニョ現象 春にかけて終息の可能性◇

気象庁は、南米ペルー沖の監視海域の海面水温が基準値より高くなるエルニーニョ現象について「春にかけて終息に向かう可能性が高い」と発表した。現在は特徴が明瞭ではないが発生が持続している。冬に発生すると暖冬になる傾向がある。(2015年1月9日)

◇香港向けの牛肉輸出月齢制限を撤廃◇

農林水産省は、香港向けの牛肉輸出の月齢制限撤廃が決定したと発表した。これまでは「30カ月齢未満」が輸出条件だったが、2013年に国際獣疫事務局(OIE)から日本が牛海綿状脳症(BSE)リスクを「無視できる国」に認定されたことなどを受け、撤廃を求めている。今後は厚生労働省と連携し、輸出に必要な衛生証明書などの改正手続を進める。(14日)

◇MA米の第5回入札 落札率7.1%にとどまる◇

農林水産省は、ミニマムアクセス(最低輸入量、MA)米の2014年度第5回売買同時入札(SBS取引)結果を公表した。予定数量の3万トに対して、落札は2144ト(落札率7.1%)にとどまった。国産米の価格下落などが影響した。一般米の加重平均価格はキロ当たり220円だった。(14日)

◇日豪EPA発効 牛肉の輸入関税引き下げ◇

日本とオーストラリアの経済連携協定(EPA)が発効した。牛肉の輸入関税は、38.5%から冷凍肉が30.5%に、冷蔵肉は32.5%に下がる。関税削減は年度ごとのため、4月1日からもう一段引き下げ、冷凍肉は18年目までに19.5%に、冷蔵肉は15年目までに23.5%となる。(15日)

◇岡山県笠岡市で鳥インフル確認 今冬4例目◇

農林水産省は、岡山県笠岡市の養鶏場(約20万羽)で発生した高病原性鳥インフルエンザが疑われる事例について、遺伝子検査の結果、H5亜型のウイルスを確認したと発表した。岡山県は鶏の殺処分など防疫措置を講じている。今冬の養鶏場での発生は、宮崎県延岡市、宮崎市と山口県長門市に続き4例目。なお、延岡市の発生事例は7日に発生農場の半径3^キ。圏内に設定した移動制限区域を解除、すべての防疫措置が終了した。(15日)

◇TPP日米協議再開「難しい問題残る」◇

日米両政府は、14日から都内で再開した環太平洋連携協定(TPP)交渉の事務レベル協議を終えた。米通商代表部(USTR)のカトラー次席代表代行と協議した大江博首席交渉官代理は「間合いは

いよいよ近づき始めているが、まだ難しい問題が残っている」と述べた。両政府は数週間以内に米国で再協議する予定。(16日)

◇内閣府「女性のチャレンジ応援プラン」策定◇

内閣府は、「女性のチャレンジ応援プラン」を策定した。各省庁が2015年度に実施する女性の支援策を①家事や子育てと両立可能な就職・再就職支援②専門資格など生かした再就職支援③女性のアイデアで地域を元気づける企業支援——など5項目にまとめ、一元的な情報提供を通じて女性の活躍を後押しする。3月に専用のウェブサイトを開設し、公開する。農林水産省の事業では、農家女性にマーケティングを学ぶ場を提供する「輝く女性農業経営者育成事業」(15年度予算案=1億2千万円)を盛り込んだ。(16日)